

小学六年

国語

解答と解説

1

問一	i	21
ウ	ii	22
エ	iii	23
オ	問二	24
物見遊山	問三	25
イ	問四	26
エ		

問五			
乗	て	え	息
り	息	て	子
こ	子	ほ	に
え	の	し	は
よ	帰	い	な
う	り	と	ん
と	を	思	と
決	待	い	か
心	つ	つ	つ
し	自	つ	ら
て	分	、	い
い	も	寺	修
る	不	を	行
。	安	守	に
	を	つ	耐

27
28
29
30

問六	⑤	31
ア	⑥	32
ウ	問七	33
エ	問八	34
イ		

問九	青	35
白	い	36
顔	の	
問十	ア	

5		4		3		2	
⑥	①	①	①	①	問九	問四	問一
複雑	除去	エ	と	と	そ	エ	1
		②	ど	ど	の	問五	エ
65	60	55	50	50	後	42	37
⑦	②	オ	②	②	も	イ	2
研究	墓石	③	は	は	、	問六	ウ
		ア	ず	ず	、	1	38
66	61	56	51	51	問十	ア	3
⑧	③	④	た	た	ウ	2	イ
承認	録画	イ	た	た	48	44	39
		⑤	④	④	49	ウ	問二
67	62	58	52	52	問七	エ	相手
⑨	④	ウ	さ	さ	エ	45	手
裁	復旧		め	め	問八	46	と
			⑤	⑤	イ	47	の
68	63		53	53		関	40
⑩	⑤		さ	さ		問三	工
拝	改札		わ	わ		41	
69	64		54	54			

(配点)

① (問一) 各2点、(問五) 7点、(問六) 各3点、他各5点
 ② (問一) 各2点、他各5点
 ③④⑤ 各2点

} 計150点

【解説】

1 三浦哲郎の「とんかつ」（筑摩書房）から出題しました。

福井県で旅館を営む女将の視点から、寺の跡継ぎになるために修行をしに来た十五歳の少年やその母親とのやりとりを描いた作品です。

問一 A2 関係つけ 知識

i 少年がはにかみながら頭を下けている場面です。直後の「頭を下げた」とのつながりを考えて「べこり」を入れましょう。

ii 前日の女中との話は冗談のつもりでしたが、実際に親子が降りて来たときの身支度は、これから心中してもおかしくないようなものでした。「まさか本当に……」という気持ちを入れます。「ぎくり」を入れます。

iii 「どちらまで？」と聞かれた母親の返答であり、直前に「あちこち」と言っていることを合わせて考えると「いろいろ」が入ります。

問二 A2 知識 関係つけ

「これは、ただの①の旅ではあるまい。」という表現から、①には一般的な旅の様子を表す言葉が入ると分かります。「物見遊山（ものみゆさん）」で、「様々な場所を見物して遊び歩くこと」という意味になります。

問三 B1 理由 比較

客のことをあれこれくわしく聞き出そうとするのはならわしに反することですが、それでもなお「どちらまで？」と聞

いてしまう気持ちを考えましょう。また、この後の会話で出てくる私鉄やバスの時間の話は、本当にそれを教えてあげようという気持ちで出てきたものではなく、親子がどこへ行くつもりかをよりくわしく聞き出そうとする過程で出てきた話です。問一 ii でみたように、外出の支度をしてきた親子の様子を見て「もしかして、本当に心中するつもりなのではないか」と考えたために、それとなくどこへ行くつもりなのかを聞いておこうと思ったのだと考えられます。ア「観光場所を紹介しておこう」、ウ「東尋坊に行くつもりに違いない」、エ「調べて教えてあげようと思った」がそれぞれ誤っています。

問四 B1 具体・抽象 比較

——線③直前の「にこりともせずにつむいて」「仕方がないというふう」に注目しましょう。頭を丸めたこと自体は納得できているものの、先ほどと大きく変わった自分の姿を他人に見られるのがはざかしいという気持ちがあることが読み取れます。ア「自分の意志ではないとうつたえたい」、イ「ほめられるかもしれないと期待する」、ウ「身が引き締まるような」がそれぞれ誤っています。

問五 B2 具体・抽象 推論

直前の母親の発言だけでなく、その後帳場で母親が語った内容を合わせて考えると、実際に修行に入るのは息子なので、息子に対しては「父親も見守っているのだし、修行はつらいはずだがなんとか耐えてがんばってほしい」といい聞かせたい気持ちを読み取れます。また、自分に対していい聞かせようとする内容としては「息子が修行を終えて帰ってくるまで

は、不安やさびしさに耐えてなんとか寺を守り続けなければならぬ」ということが考えられるでしょう。指定された語句は使い忘れないように気をつけましょう。

※ 設問の指示や字数・文字指定に従っていないものは不正解とします。ただし、誤字脱字が一つの場合は減点1点、二つある場合は減点2点、それ以上は不正解とします。また解答の説明に過不足がある場合は減点2点とします。

問六 **A1** 知識

⑤ 「口車に乗せられる」とは、「うまく言いくるめられる、あるいはだまされる」という意味です。「祖母は犯人の口車に乗せられてしまった」というように使われます。

⑥ 「悠長な」とは、「動作や態度がのんびりと落ち着いている」という意味です。「そんな悠長なことを言っている」というように使われます。

問七 **B1** 具体・抽象 比較

母親としては、修行を終えて少しでも早く寺を継いでほしいという気持ちの他に、わずか十五歳で親元を離れ修行に入らなければならぬ息子への可哀相だという気持ちもあるはず。好物のトンかつをせっせと食べる息子を、それらが入り交じった複雑な気持ちでながめているのです。ア「つらい修行に耐えていけるのだろうか」、イ「自分をうらんでいいのではないか」、ウ「きつとつらい修行にも耐えてくれるだろうか」がそれぞれ誤っています。

問八 **B1** 具体・抽象 比較

実際に久しぶりに会うこと自体には変わりがないのに、「面会ではなく見舞い」と言ったのはなぜかを考えましょう。「面会」と「見舞い」がどう違うのかを考えることが大切です。「面会」は入門後百日は禁止であるものの、それ以降は手続きをとればできるものです。これは、親の側が積極的に会おうとするものだといえます。それに対して「見舞い」は、親が積極的に会おうとするものではなく、息子のけがの様子を親として確認するために行うものだといえるでしょう。「面会な どせずに」「五年間の修行を終えて帰ってくるのを待つ」という母親の決心が現れた行動だと言えます。ア「ついでにこっそり面会しておこう」、ウ「どうしようか迷う」、エ「いてもたってもいられない」がそれぞれ誤っています。

問九 **B1** 置換

「見違えるような凛とした僧」の反対ですから、同一人物がまだ幼い様子を見せている場面を探せば良いことが分かります。入門前に母親に連れられて宿にやってきた場面を中心に探しましょう。字数をたよりに探すのではなく、どのような内容の場面を探すかを事前に決めてから探すとうまくい

く。i の二行前にある「青白い顔の、ひよろりとした、ひよわそうな少年」という表現が正反対の様子を示しています。

問十 **B1** 具体・抽象 比較

「目を和ませる」とは、「凛とした表情が少しゆるみ、うれ

しそうな顔になった」という意味です。「こちらを見た」ということは宿の女将の方を見たということですから、調理場から自分の好物であるとかんかつのおいがしてきたことや、この場面で宿の女将が自分の好物を覚えていてくれたことがうれしくて、そのような表情になったのだと考えられます。イ「母と会えるのがうれしい」、ウ「成長した様子を母に見せられる」、エ「今回こそは母より早くとかんかつを食べよう」がそれぞれ誤っています。

2 土井隆義「つながりを煽られる子どもたち」（岩波書店）から出題しました。昔と今の社会状況を比べながら、今の子どもたちが一人だけで過ごすことに恐れを感じていること、コミュニケーション能力が過剰に大切にされていることなどを論じた文章です。

問一 **A2** 関係づけ **知識**

接続語を選ぶ問題です。まずは前後の部分をおさえ、どの部分とどの部分がどういう関係でつながれているかを確認しましょう。

1 直前には、日本の失業率が急激に悪化した時期に「コミュニケーション能力」という言葉が出てくる記事が朝日新聞で増えたという内容があり、直後には、日本経団連のアンケート調査で「コミュニケーション能力」を重視する企業が増えてきたという内容が続いています。直後の文の「も」に注目すると、二つの内容が並列されていることが分かります。したがってエ「また」が入ります。

2 直前には、一般的にコミュニケーション能力が高ければ

高いほど社会的に有利なポジションに立ちやすくなると考えられている、という内容が書かれています。これに対して直後には、その考えの中に大きな錯覚がふくまれていることが書かれています。前後の内容が反対になっていることから、ウ「しかし」が入ります。

3 直前には、「コミュニケーション」という言葉が、仲間内の会話で人間関係の潤滑油として使われていることに注意が必要だという筆者の意見が書かれています。直後の部分でその理由として、かつてその潤滑油として使われていたのが「大人社会への敵意」であったことが続いています。直後の文の「から」とのつながりや、前が結果、後が理由の関係になっていることから、イ「なぜなら」が入ります。

問二 **B1** 具体・抽象

まずは、筆者がコミュニケーション能力を直接的に分かりやすい形で表現しているとしたらどのような文の形になるかを考え、それに近いものを探していきましょう。「コミュニケーション能力とは、○○なものだ」「△△なものだ」「コミュニケーション能力だと思ふ」などの形が考えられます。また、空らん直前の「固有の能力として身につけるものではなく」から、その反対の内容が入ることも読み取れます。以上の情報を総合して探すと、《2》から始まる段落でそのような話をしていることが見つかります。

問三 **B1** 具体・抽象 **比較**

直後の文に「貨幣さえあればどんな商品とも交換できるように、コミュニケーション能力さえあればどんな他者とも関

係を取り結べるからです。」と理由が述べられていることに注目しましょう。たくさん持つていればより多くの関係を取り結ぶことにつながり、結果的に社会的地位を上げることにつながる、というのが両者の共通点です。

問四 **B1** 具体・抽象 比較

段落冒頭に「その事例の一つとして」とあることから、直前の段落に書かれている内容の例として「コミュ障」という言葉が挙げられていることが分かります。直前の段落には、コミュニケーション能力が私たちの意識を外部から拘束する力が強く、人生を決める力を持っていると考えられていることが書かれています。したがって、エが正解となります。

問五 **A2** 知識 比較

「風潮」という熟語において、「風」は「人々に影響をあたえる」という意味で使われています。これと同じ使い方になっているのはイ「風習」です。ア「風雨」は空気の動きとしての風、ウ「風味」・エ「風流」は味わいやおもむき、という意味で「風」が使われています。

問六 **B1** 理由 比較

1 一つ目の理由は、(中略)より前の部分に書かれています。本文前半から「子どもたち」「コミュニケーション能力」「偏重」というキーワードをもとに理由を探しましょう。社会全体でコミュニケーション能力の重要性が強くさげばれている中、以前は社会に反発していた子どもたちもその影響を大きく受けるようになっていて、ということが一つ

目の理由です。したがって、アが正解となります。

2 もう一つの理由は、——線⑤をふくむ段落の前後にまとめられています。ここでテーマになっているのは「価値」という言葉です。友人の多さなどによってコミュニケーション能力が測られ、それによって自分の価値が決まってしまうという考え方が、子どもたちにコミュニケーション能力が偏重される理由になっています。したがって、ウが正解となります。

問七 **B1** 関係づけ 比較

直前の「そうやって」は、三〇歳を過ぎて独身でも世間から白い目で見られるようなことがなくなり、単身者でも生活しやすくなった現在の社会状況を指しています。これはつまり、人間関係を社会から強制されることが少なくなり、自分で好きなように選べるようになったということになります。したがって、エ「自由度」が入ります。

問八 **B1** 関係づけ 比較

⑦の四行前「つねに誰かとつながっていなければ逆に安心できなくなっています。」から、⑦には「つねに誰かとつながること」の反対の内容が入ることが分かります。したがって、イ「一人で生きていくこと」が入ります。

問九 **B1** 関係づけ

抜けている文をもとにもどす問題です。やみくもに答えを探し始めるのではなく、最初にぬけている文そのものをおさ

え、前後にどのような内容がありそうかということについて情報をつかみましょう。「それ」という指示語、「集団のしがらみからの解放」の二つから、この文がもどる前の場所に、集団に関係なく生きていく様子が書かれていることが分かります。——線⑤の十五行後から始まる段落に、求める内容が書かれています。抜けている文はその段落の最後に入ります。

問十

B1 具体・抽象 比較

本文の内容と合うものを選ぶ問題です。このような問題を解く際には、選択肢と本文の対応を確認し、選択肢の内容と本文の内容を照らし合わせながら正誤を判断しましょう。ア「『あうんの呼吸』を可能にするようなコミュニケーション能力」、イ「人間関係を維持するのが難しくなる」、エ「恋人や仲間といった人間関係からも離れて」がそれぞれ誤っています。また、ウの内容は本文後半の内容と合っています。